

小児科学

責任者名：米原 啓之

学期：前期

対象学年：5年

授業形式等：講義

◆担当教員

米原 啓之(口腔外科学Ⅱ 教授)

浦上 達彦(隣接医学 兼任講師)

石毛 美夏(隣接医学 兼任講師)

鈴木 潤一(隣接医学 兼任講師)

小川 えりか(隣接医学 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

小児の成長や発達を正しく理解するとともに、各種疾患の診断、治療および予防について基本的事項を習得し、歯科医療の一助となることを目的に学修する。

◆到達目標 (SBOs)

歯科診療を行うために必要な小児科的な知識を身につけ歯科診療を行うことができる。

◆評価方法

隣接医学Ⅲ各7教科(小児科学・耳鼻咽喉科学・皮膚科学・泌尿器科学・眼科学・産婦人科学・精神・神経科学)の各問題を一つの試験としてまとめ、試験を実施する。平常・定期試験(100%)により評価する。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
米原 啓之	月曜日～金曜日 17:00～18:00 口腔外科Ⅱ・臨床医学講座教授室	yonehara.yoshiyuki@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

講義は教科書、PC、黒板を用いて行う。平常テストを行う場合があり、この平常テスト後にフィードバックを行う。

◆教材(教科書、参考図書、プリント等)

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書	隣接医学Ⅲ (PDF ファイル配付)	日本大学歯学部編	日本大学歯学部	令和3年
プリント	プリント配付			
参考書	小児科学 第3版	大関 武彦 / 近藤	医学書院	平成20年

		直実編		
参考書	小児疾患診療のための病態生理 改訂5版 1, 2, 3	『小児内科』『小児 外科』編集委員会共 編	東京医学社	平成26年

◆DP・CP

DP4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

DP5

コンピテンス：挑戦力

コンピテンシー：新たな課題の解決策を見出すために、基礎・臨床・社会医学等の知識を基に積極的に挑戦し続けることができる。

DP6

コンピテンス：コミュニケーション力

コンピテンシー：医療をはじめとする様々な場面において、他者との円滑な意思の疎通を行い、互いに価値観を共有し、適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

DP7

コンピテンス：リーダーシップ・協働力

コンピテンシー：患者を中心としたチーム医療において、責任ある医療を実践するためのリーダーシップと協働力を養うことができる。

CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

CP7

歯科医師の責務を自覚して、責任あるリーダーシップを発揮し、患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

必ず事前に教科書を読んで、授業内容の目的を理解しておくこと。

◆準備学習時間

各々授業時間相当を充てて予習と復習を行うこと。

◆全学年を通しての関連教科

隣接医学 I, II

口腔外科手術時の患者管理

口腔診断学・有病者歯科学

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		4.6	7	1. 成長発達 1) 概念 2) 身体的成長 3) 成長発達の評価 2. 遺伝病 1) 概念 2) 染色体異常	・小児の成長や発達を正しく評価できるように説明できる。 ・遺伝病を正しく理解し、合併症を説明できる。	石毛 美夏	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
2		4.13	7	3. 感染症 1) 麻疹 2) 風疹 3) 水痘 4) インフルエンザ 5) 流行性耳下腺炎 6) 溶連菌感染症 4. 精神神経疾患 1) てんかんと熱性痙攣 2) 精神運動発達遅滞	・小児の主要感染症とその臨床的特徴と治療を説明できる。 ・小児の痙攣疾患を説明できる。 ・精神運動発達遅滞について説明できる。	小川 えりか	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
3		4.20	7	5. 腎疾患 1) 急性糸球体腎炎 2) 慢性糸球体腎炎 3) ネフローゼ症候群 4) 小児腎疾患と歯科治療 6. アレルギー疾患 1) 食物アレルギー 2) 薬物アレルギー 3) 気管支喘息 4) アナフィラキシー	・小児の腎疾患の病態、予後、治療について説明できる。 ・小児腎疾患と歯科治療との関連について説明できる。 ・種々のアレルギーの病態を理解し、治療を学び説明できる。	小川 えりか	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識
4		4.27	7	7. 血液疾患	・小児期に特有な疾患頻度の高い血	鈴木 潤一	E-6 医師と連

				<ul style="list-style-type: none"> 1) 白血病 2) 悪性リンパ腫 3) 血小板減少性紫斑病 4) 血液凝固異常症 8. 循環器疾患 <ul style="list-style-type: none"> 1) 先天性心疾患 2) 後天性心疾患 	<p>液・循環器疾患を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液疾患を把握し、病態と治療を説明できる。 ・循環器疾患を把握し、病態と治療を説明できる。 ・小児血液、循環器疾患と歯科治療との関連について説明できる。 		携するために必要な医学的知識
5		5.11	7	<ul style="list-style-type: none"> 9. 栄養代謝疾患 <ul style="list-style-type: none"> 1) 糖尿病 2) 低血糖 3) アセトン血性嘔吐症 10. 内分泌疾患 <ul style="list-style-type: none"> 1) 下垂体疾患 2) 甲状腺疾患 3) 副腎疾患 4) 性腺疾患 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養代謝性疾患の病態と治療を説明できる。 ・小児期に特有な疾患頻度の高い疾患を説明できる。 ・各種ホルモンの作用機序を把握し、身体の中での役割を正しく説明できる。 	浦上 達彦	E-6 医師と連携するために必要な医学的知識

